

滋賀国スポ 2025

4班が**出場**決定!



ボート班

▲左から渡辺さん、服部さん、矢村さん、林昴さん、林樟太朗さん、富田さん



ラグビー班

▲木村蒼芽さん
今大会では水泳班・ボート班・ヨット班・ラグビー班の計4班から14名が
出場予定。ボート班からは林昴さん、矢村怜久さん、服部大樹さん、渡邊悠飛さん、林樟太朗さん、富田歩実さんの計6名
が
出場する。ラグビー班は木村蒼芽さんが
出場、水泳班は町田大翼さんと高橋康晟さん、ヨット班からは須田博也さん、中塚貴博さん、池本陽翔さん、澤端唯さんが
出場する。
滋賀県での国民スポーツ大会の開催は44年ぶり2回目となる。

▼左から池本さん、須田さん、塚田さん、澤端さん、中塚さん



ヨット班

▲左から町田さん、高橋さん
いつ起こるか分からない災害。われわれの災害への備えは十分だろうか。今回は膳所高校の防災設備・物資や避難所の想定などについて取材した。
膳所高校では災害の際に生徒が帰宅困難になることを想定し、第1グラウンドに2か所ある防災倉庫に全校生徒一日分の水と食料が保管されている。有事の際の地域の避難所としては体育館や武道場などを開放する想定をしており、避難者が多くなれば教室も避難所になる。
26面 防災フェス2025
27面 防災いま再考の時

この秋、滋賀県で第79回国民スポーツ大会が開催される。膳所高校からは運動部計4班が出場する。
2～5面 選手ら意気込み語る

滋賀開催 44年ぶり 計14名が**出場**



水泳班

10月特集号

発行



膳所高校
新聞班



第31号

- 紙面案内 -

国民スポーツ大会

滋賀県での開催となる国民スポーツ大会。本校からの出場選手が本番への思いを語った。 2～5面

膳高新聞の歴史

旧制中学校時代から続く膳高新聞。その第一号が本校の資料室で見つかった。紙面からは当時の雰囲気がかがえた。 6面

知事会見

8月18日、県内高校新聞部を対象とした知事会見が行われた。新聞班は学校購買などについて質問した。 7面

農業関連

滋賀県の米の開発や栽培方法の意外な工夫とは!?行政・農協・生産者の3つの視点からひも解く滋賀の農業の実態。 8～19面

夏の大会結果

膳所高校の各班全国・近畿・県大会での活躍。 20～23面

琵琶湖疎水

今年8月に国宝・重要文化財に登録された琵琶湖疎水を新聞班が訪れた。 24面・25面

防災

8月8日県庁にて開催された防災フェア2025を取材し、学校の防災について考えた。 26～28面

学校の**防災** 実態は**!?**

出場する膳高生



2025 わたSHIGA輝く国スポ・障スポマスコット
キャラクターキャプフィー・チャップフィー

湖国の感動 未来へつなぐ

わたSHIGA輝く 国スポ・障スポ 2025

地元開催の国スポに向け

意気込み語る

新聞班は10月に開催される国民スポーツ大会に出場する生徒を対象に取材を行った。

取材に応じてくれた生徒の中には大学受験を控える3年生も多かった。それぞれの選手に大会に向けた思いがあり、彼らの言葉からは、日々の努力や成果を残す気概が感じられた。

10種目で入賞目指す

水泳班

▼競技中の様子 = 水泳班提供



町田 大翼さん
(1年8組)

ずっと前からこの大会をターゲットに練習してきたという町田さん。滋賀県での国スポの開催について「練習の成果を出し切る機会があることはありがたい」と語った。本番では結果を出すことより「楽しむことを大切にしたい」と意気込んだ。

▼競技中の様子 = 水泳班提供



15日までの3日間の開催となる予定だ。ふたりが所属する滋賀水泳チームは全競技の中から10種目入賞を目指している。



高橋 康晟さん
(2年9組)

「地元開催の国スポは貴重な機会。それを無駄にしない活躍をしたい」と大会への思いを明かす高橋さん。「本番には普段通り楽しんで臨みたい。そのうえで、支えてくれた人たちに恩返しするため結果を追っていきたい」と語った。

日々の練習を工夫 ヨット班



▲競技中の様子 =ヨット班提供

普段の練習では「課題を明確にし、一つずつぶしてしている」という須田さん。競技のために体重管理も徹底するなど、日々の生活もヨットに捧げているそう。意気込みを聞くと、「入賞できるように責任をもって臨みたい」と語った。



須田 博也さん
(2年5組)

高校からヨットを始めたという澤端さん。普段の練習について尋ねると、「その日の課題を明確にして、日々の練習に取り組んでいる」と話していた。また、本番では「自分の力を発揮して、よい結果をつかみ取りたい」と勝利への意欲を表明した。



澤端 唯さん
(3年1組)

▼競技中の様子 =ヨット班提供



池本 陽翔さん
(3年4組)

滋賀県での国スポの開催について、「大会での活躍を大きな目標としてきたので、うれしい」と話した。

5人の中で唯一個人競技に出場する池本さんは、ひとりでヨットを操ることのできる体をつくるために、班活動以外の時間も運動に取り組むなどしているという。最後に「最後の大会なので頑張ります」と熱い思いを語った。



塚田 乃愛さん
(3年2組)

この国スポに向けた思いを尋ねると、「頑張ります」と答えた塚田さん。日々、琵琶湖の水面を見るなどして、ヨットに必要な情報収集をしているそうだ。最後に意気込みを訊くと、「悔いがないように全力で取り組んでいきたい」と語った。

「滋賀県での開催なので結果を残したい」と語る中塚さん。週5日の練習以外の時間もヨットのために使っているそうだ。試合への意気込みを聞くと、「最後の大会なので悔いなく頑張りたい」と、熱い決意を語った。



中塚 貴博さん
(3年3組)

目指すは 日本一 ボート班

「滋賀開催のため、地元や学校からの応援に応えたい」と国スポへの思いを話す服部さん。5人の選手で練習の様子を見返し、仲間と考えを共有するなどして技術を向上させているそうだ。大会に向けた意気込みを聞くと、「出場できなかつた3年生の気持ちも背負って、絶対に優勝します」と話した。

服部 大樹さん
(2年3組)



矢村 怜久さん
(2年8組)



国スポへの思いを聞くと、去年憧れの林樟太郎さんも出ていた国スポに出場できてうれしと語った矢村さん。ボートを見るのも好きで、強い選手の動きを参考にして研究をしているという。食事にも気を付けているそうだ。矢村さんはシングル(一人乗り)の選手。「国スポに出る選手のレベルは高いので、その気迫に負けずに限界まで実力を出し切りたい」と話した。



林 昂さん
(2年3組)



▲競技中の様子
= ボート班提供

滋賀県開催の国スポへの出場が決まり、「滋賀代表として頑張りたい」と話す林昂さん。過酷な練習が続いても睡眠は必ず確保し、風邪をひかないように手洗いやうがいをし、食事にも気を付けているそうだ。インターハイ・全国選抜で日本を目指すと林さん。彼の国スポでの目標は優勝だ。



富田 歩実さん
(2年3組)

中学時代からボートをしているという富田さん。「いつも練習している場所競技ができるのはうれしい」と国スポへの思いを語った。ボートのために「フィジカルをよくできるように食事をいっぱいとりするようにしている」という。最後に意気込みを聞くと、「自分は補漕だが、この経験を来年のインターハイにつなげていきたい」と話した。

昨年の雪辱 果たす



渡邊 悠飛さん
(3年1組)

「今までライバルだった他の高校の人と一緒に戦えるのは楽しみ」と国スポへの思いを語る林樟太朗さんの練習時間以外も、班員と課題を話し合ったり、早起きを心掛けたりしているという。また、勉強などポート以外の活動も怠らないことで、厳しい練習が続いてもメンタルを保てると話した。最後に意気込みを聞くと、「優勝は目指すが、このメンバーで最後までやり切りたい」と熱く目標を語った。

国スポでの目標について、「佐賀国スポに続いての出場。去年準決勝で敗退したリベンジを果たしたい」と話した渡邊さん。普段の練習では漕手が頑張つて漕げるようにまっすぐボートを進ませることを意識しているという。また、体重管理では55kgになるように気を付けているそうだ。渡邊さんはこの大会が最後の大会となる。「集大成を出して優勝できるように頑張りたい」と意気込んだ。



林 樟太朗さん
(3年1組)

班活動＋クラブで猛練習 ラグビー班



木村 蒼芽さん
(2年1組)



▲競技中の様子 = ラグビー班提供

国スポの出場が決まり「自分の県での大会は人生に一度の光栄」と話す木村さん。普段はラグビーのために食事のバランスを考えているといい、また練習は、週5から6日の班活動に加えて、週3から4日のクラブ活動でも練習するという精進ぶりだ。最後に、「たくさんの人に応援をもらっている。その恩返しとして、一人でも多くの人によい姿を見せたい。また、滋賀のラグビーにプレーで貢献したい」と意気込みを語った。

昭和11年に遡る!! 膳高新聞の歴史

旧制中学校時代から存在

新聞班は報道部参与の板倉威一郎先生が教えてくださったかつての膳高新聞を調べた。

時代映す第一号

同窓会事務局の資料室で見つかった旧制中学校時代の第一号「写真」左は昭和11年のもの。

長く放置されていたためか、紙は茶色く酸化している。題字は「遵義」となっており、記事も文語調で書かれているため、現在の膳高新聞とはかなり



▲旧制中学校時代の第一号。左下に「ムッソリーニ外交とエチオピア問題」とある。

様子が異なる。103号「写真」下は1971年の新聞。膳高新聞が「全国高校新聞コンクール」

第二回大会にて佳作に選ばれた年だ。このころの膳高新聞はタブロイド判(一般的な商業紙の半分の大きさ)で4面構成となっていた。また、一貫して生徒会に批判的な論調で、生徒会の関係する事業が失敗すると、容赦なく辛口報道が展開された。例えば、生徒会長選挙で立候補者の不足によ

り、選挙期間が長くなった際は、「前途多難? 波乱の会長選挙」の見出しに始まり、「例年ごとく生徒の関心も低く、そのうえ候補届け出期限も幾度ものばされたうえ、やっと四人の立候補者が出るという醜態ぶりであった」

とし、その原因は「代議員会の体質すなわち：状態に問題がある」と書き立てた。今であれば問題視されかねない内容だ。

成が増えている。高校時代に本校の報道部長だった新聞班・放送班参与の板倉先生によると、こうして発行する力が衰えてから印刷の予算が削られた結果、号数もわからなくなりました。

ないかということだ。では、現在の新聞の号数は31号だが、これはいったいいつから数え上げられているのだろうか。実は2019年、新聞班の活動が復活し、その時が第一号になっているようだ。

生徒会に辛口!?

全国高校新聞コンクール佳作時代の記事

膳高新聞 第103号

いつまで続く信任投票

「信任投票」は、本誌の代議員会が、この選挙で、代議員の信任投票を行い、その結果に基づいて、執行部の役員を選出する。これは、本誌の歴史の中で、最も重要な選挙の一つである。今回は、執行部の役員選出に向け、信任投票が行われた。結果は、執行部の役員が、信任され、執行部の業務が、正常に行われることとなった。

●無気力、無関心を打ち破れ●
中西新生徒会長に期待する

●低調な膳高生徒会●
弁論大会開か

膳高新聞
大津市膳高2丁目11-1
膳高高等学校新聞班
発行人 飯野修治
印刷所 印刷株式会社
宮川印刷株式会社

美富士食堂へ
枝門前

年度	立候補者	当選者
35年	7人	4人
36年	8人	4人
37年	9人	4人
38年	9人	4人
39年	9人	4人
40年	9人	4人
41年	9人	4人
42年	9人	4人
43年	9人	4人
44年	9人	4人
45年	9人	4人

三日月知事

県内の高校生と意見交流

県内高校新聞部対象知事会見

農業政策 「持続可能性が重要」

8月18日、新聞班は、県内の新聞部員を対象とした知事会見に臨んだ。

会見は県庁横の危機管理センター1階にて、各校が用意した質問に三日

「農業を持続可能性のあるものにする」ため、散在する農地を大区画にして作業の効率を上げ、近年の猛暑にも耐えうる高温耐制品種の開発を推進しているとの回答を得た。 || 8~19 面農業関連の記事 ||



環境・エネルギー 防災分野に言及
新聞部強豪の虎姫高校は、滋賀県の脱炭素の取組の進捗状況と今後の施策・水素利用の取組について質問した。これに対し知事は、滋賀県は2030年までに二酸化炭素の排出量を2013年の半分に抑えることを目標に掲げており、2022年度で28%の削減が達成できていることから、目標の実現は可能との見解を示した。そのうえで、「さらに先の計画について



▲学校購買について質問する班員

学生の食食 知事「自治力に期待」

会見終了後は、それぞれの施策の担当部署に質問ができる機会があり、新聞班は保健体育課の安藤さんにお話を伺った。高校の購買がない学校もある中、生徒の食をどう保障するか聞いたところ、「虎姫高校では、学校近くのパン屋が閉店してから、生徒の努力によって移動販売車が来るようになった。三日月知事はこうした学生の『自治力』に大変期待されている部分がある」という意外な答えが返ってきた。



▲保健体育課の安藤さん

でも考えているところ」とも回答し、今後も脱炭素の取組を推進していく考えを明確に示した。また、水素利用については、「水素はポテンシャルのあるエネルギー源」と語り、滋賀県のような内陸部でも水素が使えるようにしていきたいと回答した。八幡工業高校は南海トラフ地震などの自然災害に滋賀県はどう対応するか質問。知事は「リスクを知り、共有すること」が災害による被害を減らすことにつながるとし、情報を周知する際はわかりやすく、具体的に、繰り返し伝えることを心掛けていくという。 || 26面 防災フェア ||